

(人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針に則る情報公開)

『切除後標本を撮影した MRI 画像の所見と病理学的所見との比較検討』

本研究への協力を望まれない場合は、問い合わせ窓口へご連絡ください。研究に協力されない場合でも不利益な扱いを受けることは一切ございません。

本研究の研究計画書及び研究の方法に関する資料の入手又は閲覧をご希望の場合や個人情報の開示や個人情報の利用目的についての通知をご希望の場合も問い合わせ窓口にご照会ください。なお、他の研究参加者の個人情報や研究者の知的財産の保護などの理由により、ご対応・ご回答ができない場合がありますので、予めご了承ください。

【対象となる方】

2028年3月31日までの間に、神経疾患ブレインバンクやバイオバンクに登録された方

【研究期間】 2018年2月2日より2028年3月31日まで

【研究責任者】 病院 放射線診療部 重本蓉子（研究実施許可受領後2023年2月22日より佐藤典子から変更）

【試料・情報の利用目的及び利用方法】

MRIは人体の解剖や病態を詳しく調べることができます。最近のMRIの発展はめざましく、様々な神経疾患の診断に欠かすことのできない診断機器となっています。しかしMRI画像でみられる変化が、実際の脳組織のどのような変化を反映しているのか(病理学的変化)は明らかになっていない部分が多いです。それは高性能MRIでようやく見つけることのできる変化は脳の非常に小さな部位にしかみられないことがあること、また脳は柔らかいため切除され病理が標本になる過程で変形してしまい、MRIの画像と厳密に比較することが難しくなるためです。しかし、処理され形が固定した病理標本に対してMRIを再度撮影することで、MRI画像でみられる変化と病理学的変化を直接比較することができるようになります。

この研究では神経疾患ブレインバンクやバイオバンクに登録していただいた方を対象に、バンクに保存された切除組織標本や剖検検体標本に対してMRI撮影を行うことで、MRI画像の変化が示す病理学的変化を解明することを目指します。MRI画像でみられる変化と対応する病理学的変化を解明することは様々な病気の診断や治療において大きな躍進につながると考えられます。なおこれらの研究に使用される診療情報などのこの研究に関するデータは、個人を特定できない形式に記号化した番号により管理されますので、個人情報が外部に漏れることは一切ありません。この研究による成果は学会発表や論文など学術的な場のみで発表いたしますが、患者様の個人情報が公表されることはありません。

なお、本研究は「A2017-099 切除後標本を撮影したMRI画像の所見と病理学的所見との比較検討の研究(研究責任者:佐藤 典子)」の継続研究となります。

【利用又は提供する試料・情報等】

試料:手術治療で得られた切除組織標本や剖検検体標本

情報等:術前・生前に撮影されたMRIなどの画像検査、診療録(年齢、性別、診断名、脳波検査等の検査

結果)

【共同研究機関】

なし

【共同研究機関以外の試料・情報を取り扱う機関】

なし

○問い合わせ窓口

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院

所属 放射線診療部 氏名 重本蓉子

電話番号 042-341-2711

e-mail:yokos@ncnp.go.jp

○苦情窓口

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター倫理委員会事務局

e-mail:ml_rinrijimu@ncnp.go.jp